武蔵野美術大学

日本画学科

Musashino
Art
University

http://nihonga.musabi.ac.jp

発行……武蔵野美術大学日本画学科研究室　〒187-8505 東京都小平市小川町1-736　☎042-342-6050（直通）
2024年6月1日発行

NIHONGA

Department of Japanese Painting 2024

日本画学科とは

東洋画の長い伝統を受け継ぎ、外来の文化の影響を吸収しつつ形成され、発展してきた日本画。その独自の造形思想と優れた材料・技法は、世界の美術の中で独自な位置を占めています。本学科の目的は、伝統に基づく技法、造形や美意識、表現など、日本画の基礎を習得するとともに、個性豊かな新しい表現を展開し、創造する力を育てることです。

日本画教育の現場から

「日本画とは何か」という問いに皆様はどの様な答えをイメージするでしょうか。これは新入生のオリエンテーションでも投げかけた言葉です。武蔵美の日本画学科を志望する方々が、日本画にどの様なイメージを抱いているのか。絵を描くための専門的な学びを日本画から始めようとする人のきっかけは様々なのではないでしょうか。

私がかつて日本画を志したばかりの1980年代初頭から現在に至るまで、社会の状況は様々な時代の変遷を重ねてきました。日本画から日本美術への関心を含め、研究者によって日本画概念の成立が解き明かされ、制度としての日本画は現在も機能しており、便利で様々な内容を包み込んでしまった曖昧な概念であることに今も変わりはないのかも知れません。
一方で日本美術への関心は一般的にも高まるばかりです。戦後の日本画滅亡論からその後の日本画壇の華々しい隆盛の時代は懐かしくも有りますが、同時期にアヴァンギャルドな日本画が存在し、江戸期の様々な異端の画家においても再評価が進んでいたのです。歴史が新たな発掘によって価値や評価が見直されているのが現在の状況でもあります。

教育の現場に話しを戻してみると、かつての岡倉天心や横山大観の時代から、西洋美術におけるものの見方を参照しながら、西洋画に対抗できる日本画の特色を打ち出そうとしていた時代から続いている美術大学のカリキュラムを見直すことも重要です。私自身が関わってきた小さな画塾では、美術大学の日本画教育の見直しを行い実践してきました。伝統的に繰り返されて来た日本画のカリキュラムを検証しながら、素材論、技法論、作家手法等の研究を深めてきました。日本画に関わる全ての素材（支持体、描画材、絵具、接着剤等）の特色を学ぶことは、素材や技法の習得に留まらずに、歴史を学ぶことにも繋がるのです。現代から近代、江戸から室町、より遡れば奈良、古墳時代まで、日本画をキーワードとして放たれたベクトルは、様々な時代の作品を浮かび上がらせることになるはずです。更に、その歴史認識は、日本に留まらずに中国から世界へ、その源流は洞窟壁画にまで遡ります。

私が武蔵美に着任する以前は教育学部での経験もあるのですが、現在の武蔵野美術大学日本画学科を日本画教育の集大成として、今までの全ての経験を学生たちに還元共有できればと思っているところです。学生達一人一人とのコミュニケーションを大切にしながら、「日本画とは何か」という問いをきっかけとして、現在の混沌とした世界情勢の中でインターネットやAIの波に翻弄されないためにも、共に考え本質を見極めようではありませんか。

日本画学科主任教授　間島 秀徳

用具の説明、絵具の溶き方など日本画の最も初歩的な基礎技法を学びながら、写生を行い、制作します。墨の表現では、たらし込みなどの古典技法を学び、次に風景写生制作へと進みます。人体デッサンでは素描力を強め、また古典模写により日本画における線描を学びます。また他学科との授業交換により、様々な表現方法を学び基礎表現力を身に付けます。

日本画基礎 I
[日本画材料の説明、静物、墨]

日本画基礎 II
[野外・風景、古典模写]

造形基礎・選択
[絹本ほか]

絵画基礎 I
[人体デッサン]

日本画基礎 III
[人体制作]

造形総合科目I類
(各自、他学科の授業を選択します)

動物や鳥、魚などを観察・素描し、生き物のフォルムや動きを捉え、制作を行います。
人体デッサン及び人体制作で、造形としての表現力を体得し、古典模写によって日本画の線、空間に対する認識を深めます。意匠と造形では、金銀箔、砂子、切金等の伝統技法を学び、日本画独特の造形思考を実践して習得します。

日本画基礎 IV
[鳥獣魚デッサン、動物制作]

日本画基礎 V
[意匠と造形、箔指導]

日本画基礎 VI
[表現と発想]

絵画基礎 II
[人体デッサン]

絵画基礎 III
[古典研究、裏打指導]

日本画基礎 VII
[進級制作、コンクール]

日本画学科カリキュラム

３年次は、各自の主体性を重視した自主制作となり、２つのクラスに分かれた授業となります。
それぞれがテーマやイメージを探したり、表現方法に挑戦したりと、この時期は失敗を恐れずに、積極的に自身の制作に取り組みます。古典研究や写生旅行、１２号館地下展示へ向けての展示ゼミも行います。

絵画実習 I
［ 古典研究、自主制作 ］

絵画実習 II
［ 身体性とドローイング ］

絵画実習 III
［ 風景デッサン、風景制作 ］

絵画実習 IV
［ 自主制作、コンクール ］

絵画実習 V
［ 自主制作 ］

絵画実習 VI
［ 自主制作、展示ゼミ ］

自由なテーマによる百号制作では大きな画面と取り組み、卒業制作への大切なステップとします。卒業制作は発想下絵（エスキース）の段階から充分に準備し、構想を練り個別の指導を行います。卒業制作は４年間の集大成ともいえる大切な課題となります。作品は、全学的規模で開かれる卒業制作展に出品されます。

絵画実習 VII
［ 自主制作 ］

絵画実習 VIII
［ 自主制作、卒業制作前提講義 ］

卒業制作
［ 学内卒業制作展、東京五美術大学連合卒業制作展 ］

大学院造形研究科修士課程の教育

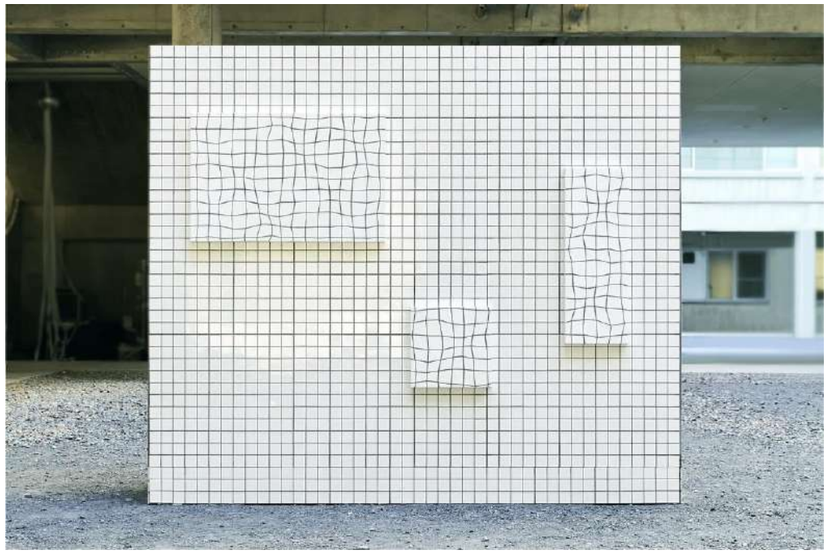
美術専攻日本画コース

各自が作品制作についての年間計画を立て、自由に研究を行います。学内外での発表を含めた、より実践的な活動を通して作家としての意識を高めていきます。また、各担当教員によるゼミと、客員教授の北澤憲昭氏によるゼミを開講します。
［学内外での研究発表展、学内修了制作展、学外修了制作展／佐藤美術館］

博士（後期）課程の研究領域

表現を改めて問い直し、より専門性の高い研究を進めます。立体・空間造形など多様な分野も視野にいれた自己の作品の可能性を探り、作家としての活動を行います。

卒業・修了制作 優秀作品



榎本 伊吹

『現象の什器』

W2197×D497×H1897(㎜)

令和５年度卒業制作優秀賞

川口　茜

『臆病者の行進』

W5880×H1940(㎜)

令和５年度卒業制作優秀賞

吉田　紋

『忘れじの』

W3909×H1620(㎜)

令和５年度修了制作優秀賞

長塚 優菜　『ぬくまり　ひえて、考える』　W2650×H2050(㎜)　令和５年度卒業制作優秀賞

吉田 真納タルーラ

『To think with our brains』

W750×D1000×H3000(㎜)

『about the end of the body』

W750×D1000×H3000(㎜)

『and the Eden that will become』

W3500×D1000×H1300(㎜)

『to feel our cosmos』

W3500×D400×H1200(㎜)

/W3500×D400×H750(㎜)

令和５年度卒業制作優秀賞

特別講義・課外授業など

和紙ゼミ
和紙の原料である楮を煮ることから始まり、各自大小の手漉き和紙の制作工程を学びます。又、世界の手漉き紙の紹介と講義があります。又、関連した企画として本年は徳島県の和紙工房「アワガミファクトリー」にて、日本画学科客員教授の栗林隆氏の監修のもと希望する学生が滞在制作を行います。昨年、そこでの作品を2022年開催の国際美術展である、ドイツ・カッセルで開催された「ドクメンタ15」へ、出品者である栗林隆氏の関連作品として出品しました。

筆制作指導
筆職人、清晨堂阿部悠季氏による日本画の筆の製作工程に関する講義です。ここでは、学生が実際の原料で各自筆作りを学びます。

特別講義
国内外で活躍する作家、他大学教員、研究者などを招きアトリエ指導と共にレクチャーやワークショップを実施しています。又、日本画学科客員教授によるゼミ講義、非常勤講師によるレクチャーもあります。

課外講座
国内外で活躍する作家や美術家、研究者を招聘し、日本画学科主催として学内外へ向けて講座を広く公開するものです。客員教授による課外講座も開催します。

国際交流プロジェクト
武蔵野美術大学の国際交流プロジェクトにより、海外の大学やアートセンターと共催で日本画学科独自の交流プロジェクトを開催しています。これは、海外の美大生やアーティストと共に展覧会やワークショップを作りながら、日本画の学生たちが海外の文化を知り、アーティストたちと広く交流するために行われるものです。アメリカ - ロサンゼルス、メキシコ - オアハカ、ブラジル - サンパウロなどのアートセンターで、これまで開催してきました。
最近では2022年開催の国際美術展である、ドイツ・カッセルで開催された「ドクメンタ15」へチーム栗林隆として参加をしました。

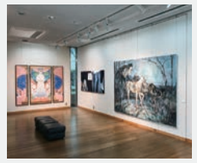
古美術研究旅行
日本各地に点在する神社仏閣を訪れ、様々な障壁画や仏像、古美術の研究を行います。これまでに京都や奈良のほか、那智や高野山、琵琶湖湖北、最近では沖縄や長崎でも研修を実施しました。京都・奈良旅行では武蔵野美術大学奈良寮に宿泊します。

風景写生旅行
学部３年生「絵画実習Ⅲ［風景］」の授業の一環として、海や高原などへ2泊3日の旅行をし、周辺の風景写生を行います。最近では、日光や伊豆、白馬村等に旅行しました。夜には、学生・教員が昼間に描いた写生を持ち寄り、研究会を行います。

箔古典技法指導
箔師である遠藤典男氏による箔についての説明と基本から応用までの技法に関する講義です。

裏打ち指導
日本画家であり、東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復日本画研究室で非常勤講師をされている武田裕子氏による裏打ち指導です。

４年生による展示実習
学部４年生大学院生有志による１２号館地下展示ゼミを毎年開催しています。これは学生たちが自主的に展覧会の運営、企画、広報などに携わり、担当教員と相談をしながら毎年５月に開催するものです。会期中に学外の美術館学芸員、美術評論家、及び学内他学科の教員をゲストに招いて、公開講評会を行います。



その他学外展示
佐藤美術館　大学院修了制作展
コートギャラリー国立　有志学部生による選抜展
UNPEL GALLERY　有志学部生による選抜展
国立新美術館　五美術大学展

教員・スタッフ

専任教員	間島秀徳（主任教授）　尾長良範　岩田壮平　室井佳世　熊澤未来子
客員教授	北澤憲昭　國司華子　日高理恵子　栗林隆
非常勤講師	浅見貴子　因幡都頼　小金沢智　武田裕子　竹原美也子　谷保玲奈 中村ケンゴ　橋本晶子　森美樹
助教	秋葉麻由子
助手	加藤まみ　日下部亜留斗　リオン アシュリ